島守小

主体的に学び合う子どもの育成

（３年計画の２年次）

校長　日山　寿康

１　研究主題について

昨年度は、研究主題を「主体的に学び合う子どもの育成」として研究実践を通して研究を進め、次のような成果が得られた。

① 課題提示の場面において、挿絵を使って前時との違いに目を向けさせて考えさせたり、説明の場面においては、定型文やキーワードを用いて説明させたりすることで、子ども同士が積極的に関わり合い、意欲的に学習に向かうことができるようになった。

② 学びを振り返る活動に継続して取り組んだ結果、単元を通して課題意識をもって学習に取り組む子どもが見られるようになった。また、自分の考えの変容について振り返ったり、自分と友達の考えを比較して振り返ったりして、次への意欲につながる振り返りができる子が増えてきた。

一方、課題として次のようなことが挙げられた。

① 完全複式になることを見据え、学年が上がってもスムーズに学習を進められるように、昨年度の研究内容にあった「複式授業の手順」「学習形態の工夫」「ガイド学習の仕方」「ノートの使い方」「振り返りの仕方」などについて学年に応じた段階を具体的に提示するための実践やまとめが必要である。

② 主体的な学びにつながる手立てとして「一人一台端末」の有効な活用方法について研究していく必要がある。

そこで、今年度は昨年度の研究を受け、主体的な学びをより深い学びにつなげていくための振り返りの仕方や複式指導の授業の工夫について研究していく。今年度から完全複式となったことにより、低学年から発達段階に応じたリーダー学習の進め方を身に付けさせ、特に間接指導時の学習を充実させていく必要がある。そこで、一人一台端末を効果的に利用したり、ティーム・ティーチングを工夫したりすることにより、基礎・基本の確実な定着を図ることができると考える。そして、身に付けた基礎学力を軸に新しい学習へと取り組ませていく中で、学習の理解度や考えの変容とその理由、原因、きっかけ等について振り返らせていく。そうすることにより、子どもの次の学びへ対する意欲が高まり、新たな問いが生まれ、学びが深まっていくと考える。

以上のことから、基礎・基本を確実に定着させるとともに、学びへの意欲を高め、学びを深める学習指導のあり方を研究することで、主体的に学び合う子どもの育成につながると考え、本主題を設定した。

２　研究のねらい

基礎・基本を確実に定着させるとともに、学びへの意欲を高め、学びを深めさせる学習指導のあり方を、算数科の指導を通して明らかにする。

３　研究仮説

複式授業における一人一台端末の利用や、ティーム・ティーチングの工夫により、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、学びへの意欲を高め、学びを深める効果的な学習指導をすることで、主体的に学び合う子どもを育成することができる。

４　研究内容

(1) 基礎・基本を確実に定着させる複式指導のあり方

ア 学年に応じた学習手順の工夫、学習リーダーの育成

イ 一人一台端末の利用のさせ方

ウ ティーム・ティーチングの工夫

(2) 意欲を向上させ、学びを深める振り返りのさせ方の工夫

ア 次の学習へとつながる振り返りの内容

イ 振り返りを次の学習へ生かす手立て

５　研究の経過

(1) 研究仮設に基づく授業研究

月	日	授業の概要
９	２２	第１回授業研究 第５・６学年　授業者：髙島　正成 題材名　５学年『分数のたし算・ひき算』　６学年『比を使った問題』
１１	１	第２回授業研究（要請訪問） 第１・２学年　授業者：大山　美江 題材名　１学年『ひきざん(2)』　２学年『かけざん(2)』
１２	２１	自主公開授業研究 第３・４学年　授業者：佐々木　耕造 題材名　３学年『間の数』　４学年『小数のかけ算やわり算』

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
７	７	１人１台端末活用に関しての研修会 講師　八戸市総合教育センター主任指導主事　石井　一二三先生
７	１４	１人１台端末活用に関しての研修会 講師　八戸市総合教育センター主任指導主事　石井　一二三先生
１１	１７	AED 講習会 講師　八戸消防署　南郷分遣所

６　研究の成果

(1) 導入時や終末時などの間接指導にあたる時間を中心に、どの学年でも学習リーダーの指示のもと、一人一台端末を利用する授業に取り組んできた。その結果、一人一人のペースに合わせて習熟の時間を確保することにつながり、基礎・基本の定着が図られた。

(2) 振り返る場面で、授業中の児童の様子や習熟の時間をもとに振り返る視点を与えて書かせるようにした。その結果、わかったこと、わからなかったことだけではなく、本時の学習を理由づけながら振り返るようになり、次の学習へ向けて意欲を高める児童が見られるようになった。

７　今後の課題

(1) 複式の授業において個人差に対応した学習指導を進めるためには、学習リーダー以外の児童にも見通しをもって授業に取り組ませることが必要である。次年度はリーダーの育成とともにリーダー以外の児童の学び方についても共通理解し、取り組んでいきたい。

(2) 深い学びに向けて、児童一人一人の振り返りの内容を充実させるためには、つまずきの原因や、見方、考え方の違いを共有する必要がある。そのために、複式であっても児童の考えの変化に気づけるような同時間接指導の導入などを視野に授業展開の工夫を図っていきたい。

（記入者　大山　美江）